

S51 年卒同窓会を富山で開催しました（2017年(H29) 4月15~16日）

約15年前から、東京、大阪と一年に一回ほどのペースで阪大溶接（主に、S47入学）のメンバーで同窓会を行ってきましたが、地理的な理由もあってなかなか全員が一堂に会することは出来ず、たまたま、ある人が「たまには東京と大阪の間でやって全員が集まろうやないか！」と言ったのを皮切りに、その案に全員が賛同し、同窓生の中の富山出身の人が「それなら、観光も兼ねて富山でやろう！！」ということになり、とんとん拍子に話が進み、富山一泊旅行付きの同窓会が4月15-16日に行なわれました。

富山という考えようによっては、東京からも、大阪からも、離れている開催地で、なかなか予定ほど人数が集まらないのでは？と幹事の間では心配していましたが、結果的には東京組と大阪組合計13名が元気に集まり、いつも以上の盛り上がりでの同窓会を行うことが出来ました。

13名もいると趣味を含めて高度のスキルをもっている人もいるもので、一泊二日の旅程はプロも驚くような一分刻みの素晴らしいものが出来上がりました。

加賀藩主の前田利長公の菩提寺である端龍寺、日本三大仏の高岡大仏からスタートして、氷見からのぞむ残雪の立山連峰、原色の高岡古城公園周辺の桜、チューリップ、世界遺産の合掌作りなど素晴らしい光景を見ながらのドライブ。夜は、温泉でゆっくり汗を流した後、富山ならではのホタルイカ、白エビ、地酒などに舌鼓を打ち、40余年ぶりに会うメンバーも含めて、全員が乗ったタイムマシーンは今と40余年前を行ったり来たりで、夜眠るのも惜しいほどにいろいろ尽きない話で盛り上がりました。

宿泊の方は、ご縁があり、同じ溶接工学科をS54に卒業されたコマツキャストックス(株)の岩崎社長様から、いろいろとご配慮をいただき、この上ない、もてなしを頂きました。（無礼ながら、この報告書で全員からのお礼を申し上げさせていただきます。）

学生時代の、授業をさぼって麻雀に明け暮れた話、試験で単位を落として留年した話、クラブ活動以外の記憶が出てこない友人の話、毎回收穫のないダンスパーティに参加した話など、当時の話から始まって、最近の趣味や健康、老後の話等、尽きることのない話題で終日盛り上がりました。

40年前はあまり話をしなかった同窓生とも、いろいろ話をしてみるとどこかしらで繋がっており、その意外性に全員が感銘の連続でした。

同窓会に参加するたびに、懐かしいひと時を過ごせるだけでなく、この上ないパワーをもたらえる場だと痛感していますが、今回は、一泊二日で普段以上に長く、そして深く話が出来、溶接工学科をベースにした同窓生の深い絆を強く再認識したひと時でした。

今回は、さらに人数を増やして、そして今のまま健康に留意して元気に再会することを全員で約束して、それぞれの帰路につきました。

改めて、40余年前に阪大溶接工学科で過ごしたかけがえのない青春の貴重なひと時に思いをはせ、うれしさを感じた同窓会でした。

今回参加できなかった仲間からは、「次回はこちらでやってくれないか」と各地から候補地の提案が挙がっており、幹事として嬉しい限りです。 (記；清水仁)



氷見湾で取れた刺身特に、白エビとホタルイカは絶品でした。
また、地酒も、非常に飲みやすくコクのあるいい味でした。



後列左から、中川、清水仁、寺澤、池田、藤原、辻、平山
前列左から、松下、石田、大谷、保木、喜渡、大橋

コマツ様の保養所で。食事も、お酒も、温泉もそして、部屋もすべて素晴らしく、十分にエンジョイすることが出来ました。(最高のおもてなしを頂きました)



世界遺産と溶接同窓の面々。みんな素晴らしいスマイルです。



残雪と透き通った空の青がこの上なく美しく、前日の二日酔いも吹っ飛んでしまいました。



国宝の瑞龍寺（熱く、加賀藩の菩提寺を案内するガイドさんが印象的でした。）
まだ、お昼だというのに、既に、大阪からの移動中のアルコールで出来上がっている人が数名。。。 誰でしょう??



まだ春を迎えたばかりの残雪と合掌造りと桜の調和が最高でした。



宿泊した温泉から見た「日の出」です！向こうに見えるのは立山連峰です！
「早起きは三文の徳」を十二分に味わいました。